

JACET Kansai Newsletter

No. 52 April 1, 2010

社団法人大学英語教育学会関西支部 (JACET Kansai Chapter)

支部長: 野口 ジュディー (武庫川女子大学) (Chapter President: Judy Noguchi, Mukogawa Women's University)

事務局: 〒606-8351 京都府京都市左京区岡崎徳成町 5 学校法人京都外国语大学 京都外国语専門学校 幸重研究室内

(Chapter Office: c/o Mitsuko Yukishige, Department of English and American Language,

Kyoto Career College of Foreign Languages)

E-mail: m_yukish@kufs.ac.jp URL: <http://www.jacet-kansai.org/>

Trusting Tradition, Channeling Change

Chapter President Judy Noguchi

JACET will celebrate 50 years of service to the college English teaching community in 2011. In the same year, the Kansai Chapter will mark its 40th anniversary. It is indeed a great honor as well as a heavy responsibility to assume the position of the Kansai Chapter president at this pivotal point in time.

Over the decades, the Kansai Chapter has grown to have more than 600 members and supports ten active special interest groups ranging from one focusing on literature in language education to those covering topics in grammar, listening, reading, writing and even one conducting research on foreign language education abroad. Our academic journal, *JACET Kansai Journal* (Volume 12), which was published in March, features the first invited paper and 11 articles contributed by our members. Recent Chapter conferences have steadily drawn more than 100 participants and the lectures and symposia have also been well attended. Supporting and guiding this active community are the Chapter officers and members of the Research Planning Committee who have so generously volunteered their time and effort to make things happen. This is a tradition of trust—trust that their work will guide the community toward a better tomorrow, trust that others will understand the value of their efforts and respond in kind.

While trusting in this robust tradition, we must also look to channeling the changes that are constantly occurring around us—changes arising from research on language and educational theory and applications as well as societal changes that are beyond our control. It would not be an overstatement to say that the work of those involved in college English teaching today is probably more important than ever before.

We no longer have the luxury of teaching English to only language majors. We are being asked to find ways to make language learning a viable endeavor to students in other major fields who are already burdened with studying the ever burgeoning knowledge base of

their respective disciplines. English is essential today as countries around the world participate in global negotiations on issues ranging from the setting of industrial standards to establishing trade agreements and discussing environmental protection. In such an interconnected world, being able to communicate effectively and efficiently in English is no longer an added extra but an essential part of the repertoire of a professional with a university education. Japanese professionals must be able to not only express themselves persuasively in a variety of contexts but also be able to critically grasp the essence of flows of communication in their professional milieus.

To support our Kansai Chapter members in such a demanding world, we will try to offer more opportunities to interact with other professionals in related organizations, continue the mentoring efforts of the Editorial Committee and paper reviewers of the JACET Kansai Journal, and elicit more participation from non-Japanese speaking members by presenting as much information as possible in both Japanese and English.

Many years ago, the advisor of a university group to which I belonged said, “A chain is only as strong as its weakest link.” Today, placing trust in our JACET tradition and preparing to innovatively channel change, I ask you to join me in making the Kansai Chapter community “chain” even stronger.

感謝をこめて

木村博是

この3月をもちまして、支部長職を任期満了で退任させていただきました。2006年6月の春季大会（立命館大学衣笠キャンパス）の総会で、支部会員の皆様方のご承認をいただき、支部長に就きましたが、非力な私がこの要職を務めることができたのは、ひとえに

会員の皆様から賜りました温かいご支援、ご協力によるものと感謝しております。お世話になった支部会員617名お一人おひとりに、この場をお借りして心からお礼を申し上げます。また、支部運営に係わった役員の方々の献身的なご尽力に対して感謝の意を表したいと思います。

私は在任中、支部活動の主な事業である①支部大会、講演会②『JACET 関西紀要』③各研究会、の3つに関連性を持たせ、それぞれを活性化させ、すぐれた成果を社会に発信すること、また、会員の増加や、若い教育・研究者育成の支援策として、学会が人材育成の場となるように努めてまいりました。その一環として、『JACET 関西紀要』は、隔年で刊行していたものを、2007年の第9号より年刊としました。また、各研究会については、活動内容を知っていただくため、年3回の講演会のうち2回は研究会のシンポジウムに変更しました。常に会員の皆様の満足度を高めることを念頭に置いて、微力ながら精一杯務めさせていただきました。おかげで充実した2期4年間を過ごすことができ、感謝の気持ちでいっぱいです。

関西支部は、2011年に設立40年の節目を迎えます。支部のよき伝統を尊重し、会員一人ひとりの思いを大切にするという基本にたえず立ち返りながら、さらに魅力ある学会へと、ますます発展することを祈念して、退任のご挨拶とさせていただきます。

■ 事務局が交代しました ■

4月1日より、支部事務局が京都外国語専門学校幸重研究室に移りました。連絡先は本NLの冒頭をご覧ください。これから1年間、関西支部事務局の仕事を担当させていただきます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。新事務局は、野口支部長、小栗副支部長、そして6名の幹事で構成されます。総務が幸重・西納、広報・紀要が山西・生馬、会計が竹蓋・平井の各幹事です。このうち、西納、生馬、平井の3名は新任です。

今後、この新体制で協力し合いながら関西支部活動の活性化に向け尽力し、会員の皆様にとって当支部をますます有意義で魅力あるものにしてゆければと考えております。皆様の温かいご理解、ご支援をよろしくお願ひいたします。

最後になりましたが、支部体制変革の重要な時期にあたる昨年度お世話を頂きました支部幹事の皆様、誠に有り難うございました。



同時に、役員にも一部変更がございました。詳細はHPの支部役員一覧でご確認ください。下記では、ご退任される旧事務局幹事、旧会計幹事、旧広報・紀要幹事、旧研究企画委員の先生方よりメッセージをいたしました。

◎旧事務局幹事：長谷 尚弥 先生（関西学院大学）

幹事としての2年間の任期の後半を事務局幹事として務めさせていただきました。何とも頼りない幹事で周囲の方々にご迷惑をおかけしたという思いで一杯です。この1年間、関西支部の活動をサポートしていただいた役員、事務局、及び支部会員の皆様方に深謝いたします。有り難うございました。

◎旧会計幹事：窪田 光男 先生（関西外国语大学）

2006年より2期4年間幹事を務めさせていただきました。学会が法人化される過渡期にあたり、財務の仕事はとても大変でしたが、学会がどのように運営されているかを知る良い機会となりました。他大学の先生方と、様々な交流の機会を持てたことも大きな財産となりました。本当にありがとうございました。

◎旧会計幹事：氏木 道人 先生（関西学院大学）

2年間、会計幹事として務めましたが、あつという間に過ぎてしまいました。大したことはできず申しわけなく思っております。幹事としてこの関西支部に微力ながら貢献できたことで大学英語教員として少し成長できたように思います。学会運営や懇親会で皆様と交流を深められたことが、何よりもいい経験でした。この2年間、支部長を初め幹事の先生方、研究企画委員の先生方にご助力頂き心よりお礼申し上げます。

◎旧広報・紀要幹事：水本 篤 先生（流通科学大学）

1期2年間の間でしたが、学会運営について多くのことを学ばせていただきました。経験不足のためにご迷惑をおかけしたこともありましたが、役員の先生方および会員の皆様のご指導のおかげで何とか無事任期を終えることができました。本当にありがとうございました。

◎旧研究企画委員長：東 真須美 先生

（神戸芸術工科大学）

2008-9年度研究企画委員長の任を終えるにあたり、関西支部会員の皆様に御礼を申し上げます。何よりもありがとうございましたのは会員の皆様の支部活動へのご支援でした。謝意の念はNL50号(October 31, 2009)においても述べたとおりです。研究企画委員会は支部会員の皆様とともに歩むことができますよう最大限の努力を心掛けてはおりますが、十分に応えきれない部分があり、さらなる改良と前進が必要あります。これは今後の期待に預けましょう。支部活動の計画・推進にあたり、力不足の私を支えて下さったのは企画副委員長(井村誠先生、川越栄子先生)、企画委員24名の皆様です。有意義な2年間を過ごさせていただきました。厚く御礼を申し上げます。

◎旧研究企画委員長：林 桂子 先生（広島女学院大学）
会員一人ひとりが主役となって、有意義な研究発表の機会を得て、継続的な参加が望まれるような学会であって欲しいと願って参りました。2006 年度からの 2 年間、研究企画委員長の折、副委員長の奥田先生、山本先生をはじめ、全企画委員および幹事の先生方に、温かく、率先的なご協力を賜りました。心より厚く御礼申し上げます。

◎旧研究企画委員：泉 恵美子 先生（京都教育大学）
林先生、東先生といった素晴らしい委員長の下で、研究企画委員を務めさせていただきました。あつという間の 4 年間でしたが、支部の研究大会を成功させるべく、皆様方と楽しくお仕事をさせていただき、様々なことを学ばせていただきました。心より感謝致しております。有難うございました。関西支部の益々の発展のために、これからも協力していかなければと思っております。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

◎旧研究企画委員：井村 誠 先生（大阪工業大学）
林委員長、そして東委員長のもとで 4 年間、書記および研究企画副委員長を務めさせていただきました。2006 年度春季大会の立命館大学に始まり、関西外大、関西学院大学、滋賀県立大学、摂南大学、神戸大学、京都外国語短期大学、近畿大学と、それぞれの支部大会会場での光景が懐かしく思い出されます。これから関西支部の益々の発展をお祈り申し上げます。

◎旧研究企画委員：甲斐 雅之 先生（京都女子大学）
林桂子、東眞須美の両委員長の下、2 期 4 年間の任期を、畠違いの私が英語教育に関わる学会でなんとかやって来られたのも、委員長をはじめ委員のみなさんが、不慣れな私を暖かく迎え入れてくださったおかげと思っております。公私ともにいろいろと変化の多かった時期で、出席率もそれほど高くなく、ようやく落ち着いた頃にやる気満々（？）で出席した委員会が最後だと知って「ずっとこけてしまった」のも良い想い出になると思います。4 年間有りがとうございました。

◎旧研究企画委員：川越 栄子 先生（神戸市看護大学）
林委員長、東委員長のもとで 2 期 4 年研究企画委員を務めさせていただきました。素晴らしいリーダーシップと温かいお人柄を兼ね備えられた両先生、優れた委員の先生方とお仕事をさせていただいて本当に楽しく幸せな時間を過ごさせていただき多くの事を学ばせていただきました。心より感謝いたしております。ありがとうございました。

◎旧研究企画委員：杉森 直樹 先生（立命館大学）
林先生と東先生のお二人の委員長の下で、研究企画委員を 4 年間務めさせて頂きました。力不足でしたが先生方のお力添えにより何とか無事に任期を終えることができました。支部大会の当日には他の委員の先生方と共に朝から大会の準備作業をさせて頂いたことなど多くのことが思い出されますが、委員として貴重な経験をさせて頂いたことにこの場をお借りしてお礼申し上げます。4 年間お世話になりました有り難うございました。

◎旧研究企画委員：東郷 多津 先生
(京都ノートルダム女子大学)
研究企画委員としての 4 年間は大変貴重な機会となりました。この間書記としてなんとか無事に務めさせていただけましたのも、林委員長、東委員長を始め、副委員長や他の研究企画委員の先生方から賜った数えきれないご指導とご協力のお蔭です。厚く御礼申し上げますとともに、学会の今後ますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。

◎旧研究企画委員：新田 香織 先生（近畿大学）
2 期といつても実質 3 年半の私にとっては短い間でした。何とか関西支部を盛り上げようと委員長の林先生、東先生のもと、研究企画委員の先生方が一所懸命議論される中で、微力ながらお手伝いさせていただいたことは、とても有意義な経験でした。特に 2009 年度秋季大会を近畿大学で始めて開催させていただき、力不足のところをみなさまに補っていたことに心より感謝いたします。

◎旧研究企画委員：野村 和宏 先生
(神戸市外国語大学)
8 年にわたり評議員に続き研究企画委員を務めさせていただきましたが、最近は土曜日の授業が重なり十分な仕事ができなくなりましたので、2009 年度末をもって退任させていただくことにいたしました。いろいろとご指導いただきました先生方に心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

◎旧研究企画委員：村上 裕美 先生
(関西外国語大学短期大学部)
2006 年から 2 期 4 年間、研究企画委員として勉強させて頂きました。木村支部長を始め、研究企画委員長の林先生、東先生のご指導のもと、何にも代えがたい貴重な 4 年を過ごさせて頂きました。委員の皆さんにもご指導を頂きながら楽しい雰囲気の中にも多くを学ばせて頂きました。4 年の間に成長させて頂いたこと感謝しております。4 月からは国際交流委員の一員としてお役に立たせて頂けるよう可能な限り努力いたします。

■ 2010 年度春季大会のお知らせ ■

2010年度 JACET 関西支部春季大会は、6月19日(土)に同志社女子大学にて開催されます。この大会でのワークショップ・コロキアム・研究発表・実践報告・ポスター発表を募集致しますので、発表をご希望の会員の方は、次の要領で関西支部事務局までご応募ください。会員の皆様の積極的なご応募をお待ちしております。

1. 発表は英語教育および関連分野に関する内容で、未発表のものに限ります。
2. 研究発表・実践報告は、発表が20分、質疑応答が10分、合計30分の形式になります。ワークショップ、およびコロキアムは90分、ポスター発表は60分です。
3. 応募者は、JACET 関西支部ホームページ(www.jacet-kansai.org)の「発表申込み」ページより発表のエクセルファイル(「form.xls」)をダウンロードして、以下の必要事項を入力し、ファイル名変更の上(例:「yamadat.xls」)、関西支部事務局(admin@jacet-kansai.org)まで添付ファイルで送信してください。

A) 応募情報

- a) 発表形式: ワークショップ、コロキアム、研究発表、実践報告、ポスター発表の別を選択してください。
- b) 発表題目(日本語と英語)
- c) 発表者情報(共同発表は氏名と所属のみ): 氏名(漢字とローマ字)、所属(日本語と英語)、E-mail、電話番号
- d) 発表に使用する言語(日本語、もしくは英語)
- e) 審査コメントの希望言語(日本語、もしくは英語)
- f) 使用希望機器(無い場合は「なし」を選択)

B) 発表要旨(目的、背景、仮説、方法、結論、引用文献等)日本語の場合は800字程度(1000字以内)、英語の場合は300 words程度(400 words以内)、無記名とする。[※重要]文字数を厳守してください。

※申込み入力確認を、入力いただいたE-mail宛に原則3日以内に受信したことをお知らせします。万一、連絡がない場合は事務局までご一報ください。

4. 申込応募期間: 2010年4月1日(木)~4月18日(日)午後11時59分
5. 選考は選考委員会にて行います。
6. 選考結果は、締切り後1ヶ月程度でE-mailあるいは封書にて通知します。
7. その他: ワークショップ・コロキアムの詳細については、事務局(admin@jacet-kansai.org)までお問い合わせください。

<発表枠区分時間>

研究発表: 20分+10分質疑応答

実践報告: 20分+10分質疑応答

ポスター発表: 昼食時間を挟む1時間

ワークショップ: 90分

コロキアム: 90分

The 2010 Spring Conference of the JACET Kansai Chapter will be held at Doshisha Women's University on Saturday, June 19. Members of the JACET Kansai Chapter are invited to present proposals for research papers, reports on classroom activities, poster sessions, workshops, and colloquiums.

Conditions and procedures for proposals are as follows:

- 1) Proposed topics should be relevant to English education and related fields. The proposed material should not have been presented elsewhere.
- 2) A research paper or a report on classroom activities should consist of a 20-minute presentation and a 10-minute Q & A period. Workshops and colloquiums are allotted 90 minutes, and poster sessions entail a 60-minute period for explanation.
- 3) An Excel-based proposal form ("form.xls") is available on the JACET Kansai Web site (www.jacet-kansai.org). Fill in the following information on the form, rename the file (e.g., "yamadat.xls"), then send it via e-mail to admin@jacet-kansai.org as an attachment.

A) Application form:

- a) Type of proposal (research paper, report on classroom activities, poster sessions, workshops, or colloquiums); b) Title of proposal; c) Information about applicant: name, affiliation, e-mail address, phone number; d) Language for presentation (English or Japanese); e) Language requested for peer review (English or Japanese); f) Equipment required.
- B) Abstract: anonymous; 300-400 words. (Mention should be made of the purpose of the research, background, methods, conclusion, necessary references.)
※ Acknowledgment of the receipt of your proposal will be sent by e-mail within three days after its receipt. If you do not receive an acknowledgment, please inform the office as soon as possible.
- 4) Submission period for proposals: From April 1 to 18, 2010.
- 5) Selection of the proposals will be carried out by the Reviewing Committee.
- 6) Notification of acceptance will be sent from the office within a month after the deadline.
- 7) With regard to workshops and colloquiums, please contact the JACET Kansai Chapter Office (admin@jacet-kansai.org) for details.

■ 第3回講演会の報告 ■

2009年度関西支部第3回講演会が、3月6日（土）に関西学院大学大阪梅田キャンパスで開催されました。

タイトル：「これでいいのか、日本の英語教育」

講演者：熊谷 俊樹 先生

（京都外国語大学教授・国際交流部長）

41名の参加があり、活発な議論が行われました。

■ 「第2次授業学研究委員会（特別委員会）」の発足について ■

JACETでは、2004年に第1次の「授業学研究委員会」が設置され、3年半にわたって活動が行われました。この度、2010年度から2年間の予定で第2次の「授業学研究委員会」が設置され、活動を開始することとなりました。今次の委員会のテーマは、「高等教育における英語授業の研究—リメディアル教育を中心にして—」となっております。JACET全体としての委員会ですが、活動は基本的に支部単位となります。委員会の活動方針等詳細が決まりましたら Newsletter等で改めてお知らせをさせていただきますので、関西支部会員の方で英語リメディアル教育に関心をお持ちの方は委員会への参加をご検討下さい。関西支部における本委員会についての問い合わせは、naosugi[AT]is.ritsumei.ac.jpまで（[AT]は@に置き換えて下さい）。

In 2004, JACET launched the English Classology Committee, which successfully achieved its goal of publishing a book on English classology in Japan. Starting in April this year, the committee will resume its activities with the new aim of carrying out theoretical and empirical research on remedial English education in Japan. The committee welcomes the participation of JACET members who are interested in the practice of remedial English instruction. More information will follow in the next Newsletter. If interested, please contact Naoki Sugimori at naosugi[AT]is.ritsumei.ac.jp. Please replace [AT] with @.

（第2次授業学研究委員会 関西支部代表 杉森直樹）

■ 紀要編集委員会より ■

『JACET 関西紀要』第12号を3月末に会員の皆様に送付させていただきました。JACET 関西支部、および紀要編集委員会では支部活動活性化の一環として、紀要の内容充実を目指して過去2年間取り組んでまいりました。その一部として、今回の紀要より、紀要刊行1年前までの JACET 支部大会および全国大会での発表済み論文枠を設けました。また、初めての依頼論文として、大谷泰照先生（名古屋外国語大学）にご寄稿をしていただくことができました。これまでの紀要とは違った形になっておりますので、ぜひご一読ください。

今回の支部紀要第12号では、昨年度と同じく1本の論文を2名の査読委員に審査いただきました。そして、条件付き採択となった論文に対しては、担当紀要編集委員が選んだそのうち1名の委員に最終審査を行っていただきました。このような厳密な書き直しのプロセスを経ることによって、掲載論文をさらにより良いものにしていくことができました。短い査読期間で何度も審査していただいた査読委員の先生方には、紀要編集委員会一同、心より感謝いたしております。

次回第13号の支部紀要でも、支部大会や全国大会で発表された内容に基づく論文を募集します。JACET 関西支部会員の皆様におかれましては、研究・実践の成果を支部紀要で報告していただけるように、次号紀要に奮ってご応募ください。

■ 事務局便り ■

支部会員向けの各種案内の配達やメーリング・リストによる情報の配信に使用いたしますので、会員情報（住所、メールアドレス、所属、電話番号など）が変わられた方は、必ずご連絡ください。なお、関西支部では名簿の作成・管理は行っておりませんので、下記の本部事務局までご連絡ください。

本部事務局メールアドレス : jacet@zb3.so-net.ne.jp